

令和7年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名		調査地点	被度(%)	状況
名瀬地区		宮古崎	10%	波当たりが強く、ハナヤサイサンゴ属が優占。被覆状のニオウミドリイシや直径20cm程度のミドリイシ属小型群体もみられる。健全なサンゴ群集が保たれていたが、2024年の白化によりミドリイシ属の群体の多くが死滅し、被度は60%から10%に減少した。今年度は白化の発生はなく、被度は昨年度同様に10%であった。
		宮古崎東	10%	波当たりが強く、ハナヤサイサンゴ属が優占。被覆状のニオウミドリイシや直径20cm程度のミドリイシ属小型群体もみられる。健全なサンゴ群集が保たれていたが、2024年の白化によりミドリイシ属の群体の多くが死滅し、被度は60%から10%に減少した。今年度は白化の発生はなく、被度は昨年度同様に10%であった。
		デン浜	5%	2007年まで大量発生していたオニヒトデ食害により礁斜面下部のサンゴは壊滅し、浜中央の水路付近に卓状ミドリイシ類が残る。大きいもので直径60～80cmほどに成長していた。周辺でも新規加入のサンゴが多かったが、2024年の白化により被度は60%から5%に大幅に減少した。今年度も被度は5%であった。
		知名瀬大浜	10%	2007年まで大量発生していたオニヒトデにより礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、新規加入のミドリイシ属が多く回復が早かったが、2024年の白化により、被度は40%から15%に減少した。今年度は被度は10%と微減した。
		大浜	5%	礁縁にはミドリイシ属の小型群体が生存し直径30～50cmほどの群体が多い。2022年度は全体の90%が白化し5%未満の群体が死滅していた。2024年の白化により被度は昨年度30%から5%に減少した。今年度も被度は5%であった。
		摺子崎	15%	2007年までオニヒトデ大発生により礁斜面のサンゴはほぼ全滅し礁縁にハナヤサイサンゴ属が優占しているが、ミドリイシ属の小型群体も多くみられる。直径20～30cmほどの群体が多い。2024年の白化により、被度は30%から15%に減少した。今年度の被度も同様に15%であった。
		赤崎	10%	1998年に発生した大規模な白化現象によりサンゴは壊滅。新規加入が少なく回復が遅れていたが、直径20～60cmの卓状および指状ミドリイシが散見できるまで回復した。2024年の白化により、被度は昨年度70%から20%に減少した。今年度は昨年度の白化の影響で、被度10%と減少した。
		名瀬湾立神	5%	1997年の台風や1998年の白化現象により卓状ミドリイシ群落壊滅。2010年から小型群体もまばらにみられるようになり、直径は20～50cm程度の指状ミドリイシ属群体が多い。2024年の白化により被度は50%から15%に減少した。今年度は昨年度の白化の影響により、被度は5%と減少した。
		山羊島	30%	ハマサンゴ属が優占。大型の塊状ハマサンゴ群体が点在し、枝状のユビエダハマサンゴ群落が広がるが、破損部分も多くみられる。ミドリイシ属は極僅かにみられる。透視度は10m程度でシルトが堆積している。2024年の白化により、被度は昨年度40%から30%に減少した。今年度も昨年度同様に被度は30%であった。
		キョンナ	15%	1998年白化現象で壊滅後、2006年に被度10%まで回復してきたが、2007年にオニヒトデにより再び壊滅した。サンゴは急速に回復がみられ、直径20cm～40cmの卓状および指状ミドリイシ属群体が散見できる。2024年の白化により、被度は昨年度40%から15%に減少した。今年度も被度は同様に15%であった。
		有良	10%	1998年の白化から回復がみられ始めた2006年に被度15%だったが、2007年に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。直径10～30cm程度の指状ミドリイシが多い。2023年の白化により被度は40%から10%に減少した。今年度も被度は同様に10%であった。
		芦花部	10%	1998年の白化から回復がみられ始めた2006年に被度5%だったが、2007年に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。直径10-40cm程度のミドリイシ属群体やハナヤサイサンゴがみられる。2024年の白化により被度は25%から10%に減少した。今年度も被度は10%であった。

令和7年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名		調査地点	被度(%)	状況
協議会	名瀬地区	摺子崎礁池	5%未満	かつて優占していたコモンサンゴ群落は壊滅し、塊状のハナガササンゴの小群落や、塊状ハマサンゴが点在する。ショウガサンゴの小型群体が散見できたが、ミドリイシ属の新規加入はほとんど見られない。2024年の白化により半数は死滅した。今年度の被度も同様に5%未満であった。
		摺子崎礁原	5%未満	卓状ミドリイシ属が優占。2007年まで大量発生したオニヒトデのリーフ内への進入を阻止し、サンゴを保全できた海域。直径50～70cmに成長した卓状ミドリイシや被覆状コモンサンゴ類がみられる。2024年の白化により半数は死滅し。被度は5%から5%未満に減少した。今年度の被度も同様に5%未満であった。
		大浜礁池	5%未満	2017年夏期高水温による白化で全体の8割が死滅した。その後も死滅は続いた。被度は2017年80%から2018年5%未満に大幅に減少した。2024年の白化で9割死滅したが、元々被度が低いため、5%未満とした。今年度は樹枝状ミドリイシ群体が少数みられた。新規加入のミドリイシ属群体も少数みられた。被度5%未満であった。
		大浜礁原	5%未満	2007年までオニヒトデ食害により礁斜面のサンゴはほぼ全滅したが駆除により礁原では全滅は免れ、卓状および指状ミドリイシ属が優占。2017年の白化の影響も軽微であったが、2024年の白化により8割が死滅し、被度は昨年度20%から5%に減少した。今年度は5%未満と減少した。
		崎原東	30%	卓状のクシハダミドリイシが優占。離礁上部は大型のクシハダミドリイシ群体に覆われている。樹枝状のヤスリミドリイシ大型群体も少数みられる。98年の大規模白化やオニヒトデ大発生の影響も軽微で高い被度が保たれていたが、2024年の白化により被度は昨年度75%から30%に減少した。今年度も被度は30%であった。
		崎原南	5%	2007年にオニヒトデの食害を受けた樹枝状ミドリイシ群落の回復が進んでいたが、2010年10月の奄美豪雨災害、2011年11月の南部豪雨による泥土の堆積があり被度は減少。樹枝状のミドリイシ属と塊状ハマサンゴが優占する。2024年の白化により被度は昨年度20%から5%に減少した。今年度も被度は5%であった。
		仲干瀬崎(小湊南)	50%	礁縁にはハナヤサイサンゴ群集が一面に広がり、礁斜面上部ではウスエダミドリイシやスゲミドリイシ等のコリンボース状のミドリイシ属小型群体も増加している。潮通しも良く順調に回復してきたが、2024年の白化により、被度は昨年度80%から50%に減少した。今年度の被度も50%であった。
	住用地区	高浜東	10%	礁縁上部に卓状ミドリイシ属の大型群体が広がり、直径2m以上のクシハダミドリイシや直径1m以上のコユビミドリイシの大型群体がみられたが、2024年の白化により多くの群体が死滅し、被度は60%から10%に大幅に減少した。今年度は、白化の発生は無かった。被度は昨年度同様に10%であった。
		高浜	20%	礁縁部に直径40～60cmの指状および卓状ミドリイシ群体指状ミドリイシ属群体がみられる。2024年の白化により8割の群体が死滅し、被度は60%から20%に減少した。今年度の被度も昨年度同様に20%であった。
		鳩ノ崎	5%	礁原上にはハマサンゴ、キクメイシ類、ショウガサンゴの小型群体が点在し、海底に大型ハマサンゴ群体が点在していた。2022年は礁原上の群体は80%が白化していたが死滅はなかったが、2024年の白化により、被度は10%から5%に減少した。今年度の被度も昨年度同様に5%であった。
		トビラ	5%未満	2010年奄美豪雨災害により海底やサンゴ群体上に泥土が堆積し70%が白化うち約半数が死滅し、生サンゴ被度は30%から10%に減少。2011年の北部豪雨では影響は軽微であったが、2011年11月2日の南部豪雨後には、再び泥土が堆積し白化群体がみられた。2015年梅雨時期に土砂の流出が発生し10cm程度の泥土の堆積みられたが、大部分は台風により洗い流された。2017年夏期の高海水温によると思われる白化群体が散見、白化率は50%で被度は2016年10%から5%未満に減少。2024年はトビラ島側のサンゴ群集周辺の海底には泥土の堆積はみられなかった。2024年の白化により、被度は昨年度5%から5%未満に減少した。今年度の被度も同様に5%未満であった。

令和7年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名		調査地点	被度(%)	状況
	住用地区	スタルトビラ	10%	湾奥小滝からスタルトビラに続く小規模なサンゴ礁。礁縁にコユビミドリイシやクシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシの群体がみられる。2024年の白化により、被度は40%から10%に減少した。今年度の被度も昨年度同様に10%であった。
		和瀬	5%	2013年に白化や台風で被度は40%から30%へ減少し、2016年は大型の塊状ハマサンゴも白化し部分死滅した。2017年はハナヤサイサンゴ類や樹枝状ミドリイシ群落が白化。2020年に樹枝状ミドリイシ群体が部分白化した。2022年は全体の80%に色が薄くなる程度の白化がみられた。2024年の白化により、樹脂状ミドリイシ群落は死滅し、被度は30%から5%に減少した。今年度も被度は5%であった。
	笠利地区	赤木名	30%	赤木名港地先の塊状ハマサンゴ群落。ハマサンゴが優先し、群種全体の9割以上を占める。その他はキクメイシ属やハナガササンゴ属の群体が点在。ウスエダミドリイシ群体も少数みられる。2024年の白化の影響は軽微であった。被度は昨年度同様に30%であった。
		前肥田	30%	ユビエダハマサンゴ群落が2016年の部分白化により死滅したが、その後回復がみられたが、2024年の白化により被度は70%から30%に減少した。小年度の被度も昨年度同様に30%であった。
		赤木名立神	5%未満	2017年はハナヤサイサンゴ群体は殆どが白化、ミドリイシ類も色が薄い軽度の白化群体が多く見られた。1998年にサンゴの白化現象によってサンゴは壊滅したが、2009年から小型群体が散見できるようになった。2024年の白化により被度は5%に減少した。今年度の被度は、2024年の白化群体の死滅により、5%未満であった。
		蒲生崎入口	5%未満	オオウミキノコやバラウネタケ等、ウミトサカ科のソフトコーラル類が優占。直径10～20cmのミドリイシ属やキクメイシ科の小型群体も散見でき、種の多様性は高かった。2024年の白化により、被度は15%から5%に減少した。ソフトコーラル類も多く死滅した。今年度の被度は5%未満と微減した。
		蒲生崎	10%	蒲生崎周辺でサンゴの小型群体が多い海域。直径2030cm程度の指状ミドリイシ属の小型群体が散見できる。オヤユビミドリイシやコユビミドリイシ、ハナヤサイサンゴが多い。2024年の白化により、被度は25%から10%に減した。今年度の被度も10%であった。
		佐仁	20%	笠利半島西海岸においてサンゴの回復が特に順調な海域であった。直径50～60cmに成長した指状ミドリイシ属群体もみられ、波当たりが強く、被覆状のニオウミドリイシも多い。礁斜面では樹枝状のアオサンゴ小群落が点在していた。2024年の白化により、被度は70%から20%と大幅に減少した。今年度の被度も昨年度同様に20%であった。
		用海岸	15%	笠利半島東海岸においてサンゴの回復が特に良好な海域。卓状および枝状のミドリイシ属の小型群体が多くみられた。南側の縁脚には卓状のクシハダミドリシ、ウスエダミドリイシ群体、北側の縁脚には樹枝状のアオサンゴ小群落が点在していた。2024年の白化により、昨年度の被度は60%から30%に減少した。今年度も、2024年の白化群体の死滅により、被度は15%に減少した。
		あやまる岬	10%	礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形で、礁縁に卓状ミドリシがみられる。直径40～60cmほどのクシハダミドリイシやコユビミドリイシが多い。太枝状のヤスリミドリイシもみられる。2024年の白化により被度は60%から10%に減少した。今年度の被度も10%であった。
		節田	10%	礁縁から礁斜面にかけて、クシハダミドリイシ、コユビミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落が広がる。直径1.5mほどの大型群体もみられた。新規加入のミドリイシ類も多かった。2022年の白化による死滅により被度は70%から40%に減少し、2024年の白化により、被度は40%から10%に減少した。今年度の被度は昨年度同様に10%であった。
		明神崎	5%	波当たりが強い礁縁にハナヤサイサンゴ科の群落が広がる。スゲミドリシイ、コユビミドリイシなどの小型群体も散見できる。水路部には直径1mほどの卓状ミドリイシ類もみられる。2022年の白化で多くのサンゴが死滅し被度は70%から15%に減少していた。2024年の白化のより、被度は15%から5%に減少し、今年度も昨年度同様に5%であった。

令和7年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名		調査地点	被度(%)	状況
	笠利地区	用安	5%未満	水路北側の礁縁。直径20cmほどの指状ミドリイシ類の小型群体が少数見られる。直径1mほどのクシハダミドリイシもみられた。新規加入のミドリイシ属のサンゴはやや少ない。2022年の白化により被度は10%から5%未満に減少し、2024年の白化による死滅もあったが、被度は5%未満であった。今年度も昨年度同様に被度は5%未満であった。
		神の子	30%	礁池内に広がる枝状のトゲエダコモンサンゴや葉状のチヂミウスコモンサンゴ群落。2019年は群落の80%が色が薄くなる軽度の白化が見られたが、白化による死滅は確認できなかった。2022年の白化の影響も軽微であったが、2024年の白化では死滅があり、被度は75%から30%に減少した。今年度の被度も同様に30%であった。
	大和村	今里沖	15%	2024年の白化では15%程度が死滅した。2004年前後のオニヒトデの大発生によりサンゴは壊滅したが、その後定着があり、ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体がみられる。被度は昨年度と同様に15%であった。
		今里小浜	20%	2024年の白化では、10%程度が死滅した。クシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシ群体が優占し成長している。2024年の白化では10%程度が死滅したが、今年度は白化の発生もなく、被度は昨年度15%から20%に増加した。
		名音沖	40%	直径30～80cm程度のミドリイシ属の卓状群体が散見できる。卓状のクシハダミドリイシが優占し、コユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等のコリンボース状の群体も多い。2024年の白化では群体の7割が死滅し被度は2023年80%から40%に減少した。今年度の被度は昨年度同様に40%であった。
		名音隧道(徳浜沖)	60%	2005～2006年のオニヒトデ大量発生によりサンゴは壊滅し、その後回復がみられている。卓状及び樹枝状ミドリイシ属群体が海底を覆い尽くすように急速に加回復してきている。2024年の白化で被度は2023年80%から60%に減少したが、大和村海域では比較的白化の影響が少なかった海域であった。被度は昨年度同様に60%であった。
		ヒエン浜中央	15%	直径20～40cmの卓状および指状のミドリイシ属群体が多く、クシハダミドリイシやヤスリミドリイシ、オヤユビミドリイシ等の直径1m程度の大型群体が少数みられる。2024年の白化により被度は昨年度20%から15%に減少した。今年度の被度も昨年度と同様に15%であった。
		ヒエン浜戸円側	15%	クシハダミドリイシやヤスリミドリイシ等のミドリイシ属の大型群体が少数みられる。ミドリイシ属の小型群体も散見できる。2005～2006年のオニヒトデ大量発生したが、集中的な駆除により全滅は免れている。2024年の白化により被度は昨年度20%から15%に減少した。被度は昨年度同様に15%であった。
		大山崎西浜	20%	直径10～30cm程度の指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴの小型群体がみられる。卓状ミドリイシの小型群体やキクメイシ科の小型群体もみられる。2024年の白化により被度は昨年度30%から20%に減少した。今年度も被度も昨年度同様に20%であった。
		トルス	10%	直径10～30cmのコユビミドリイシやクシハダミドリイシ等のミドリイシ属群体が優占する。ハナヤサイサンゴも散見。2024年の白化により、被度は20%から15%に減少した。今年度の被度は10%と微減した。
		マツコ	20%	直径10～20cm程度のコユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等の指状ミドリイシ属小型群体が散見できた。2024年の白化により被度は昨年度35%から20%に減少した。今年度の被度も昨年度と同様に20%であった。
		石川	30%	卓状および指状のミドリイシ属が優占し、卓状の大型群体(直径60～80cm程度)も散見できるようになったが、2024年の白化により、被度は昨年度40%から30%に減少した。比較的、ミドリイシ属の新規加入も多く、小型群体も散見できる。被度は昨年度同様に30%であった。
		親川	5%	直径20～60cm程度の指状および卓状ミドリイシ属の群体や、ハナヤサイサンゴが見られる。礁原にはリュウキュウノウサンゴ群落が広がる。2024年の白化により、被度は昨年度50%から10%に減少した。今年度の被度は5%であった。

令和7年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名		調査地点	被度(%)	状況
協議会	大和村	宮古崎	5%	直径20～50cm程度の指状および卓状のミドリイシ属群体が多い。昨年度、2022年度の白化の影響により被度は60%から45%に減少し、2024年の白化により被度は45%から10%に減少した。今年度の被度は5%であった。
		志戸勘コモリ	15%	礁原上にある直径約50m、水深約10mのすりばち状の窪み(コモリ)。2022年に浅所のヤツデアナサンゴモドキがほぼ全て白化し約半数が死滅、深所のミドリイシ群落は白化は無し。フトエダミドリイシやMontiporamactanensisなど、希少種も生存する。2024年の白化で被度は2023年年度20%から15%に減少した。今年度も15%であった。
		志戸勘礁池	5%未満	コモリから陸側に広がる礁池では、樹枝状ミドリイシの小型群体がまばらにみられる。直径30cm程度のウスエダミドリイシ等もみられた。2017年、2018年の白化により被度は減少し、2022年も90%が白化し、一部が死滅した。2024年の白化でほとんどの群体が死滅し、被度は昨年度5%から5%未満に減少した。今年度も5%未満であった。
		ヒエン浜礁地	5%未満	礁縁では、半球状のリュウキュウノウサンゴが散見できる。指状ミドリイシ属の小型群体が少数みられるが、礁池では塊状ハマサンゴが少数みられる程度で、サンゴの加入がほとんどない状態。被度は5%未満。
		毛陣礁縁	10%	2024年の白化により、急激に落ち込む礁斜面の被度は50%から10%に減少した。礁池内は、直径60～100cmのクシハダミドリイシやコユビミドリイシ等の卓状ミドリイシ類が優占し、樹枝状のトグスギミドリイシ大型群体も散見できたが、群体の多くが死滅した。被度は昨年度同様に10%程度であった。
		国直北	5%未満	2022年度は白化率70%(死滅率5%未満)であった。国直集落北側の砂浜前面に広がるサンゴ礁。1998年の大規模白化によりサンゴは壊滅し、2010年度から小型群体が多くみられるようになり、2022年度には90%にまで回復したが、2024年の白化により、被度は昨年度90%から5%と大幅に減少した。今年度も同様に5%未満であった。
		国直	5%未満	1998年のサンゴの白化現象によりサンゴは壊滅し2010年度からミドリイシ属の小型群体が散見できるようになった。被度はH23年度5%から年々に増加し、H29年度には80%と増加した。2024年の白化により、被度は昨年度80%から5%と大幅に減少した。今年度は5%未満であった。
		親川南	10%	2010年の奄美豪雨災害により調査地点「親川」から約500m南東で大規模な崩落があり、土砂の流出や海底への泥土の堆積がみられ、崩落現場から100m以内では約半数のサンゴ群体に白化や死滅がみられた。その後サンゴは回復が進んでいたが、2024年の白化で被度は昨年度80%から10%に減少し、昨年度同様に10%であった。
	宇検村	曾津高崎東	15%	2024年の白化以前は、クシハダミドリイシ、コユビミドリイシなどの大型の卓状ミドリイシ群体が一面に広がっており、直径1m以上の大型群体も多くみられた。2024年の白化の影響は大きく、被度は80%から10%と大幅に減少したが、今年度は白化の発生もなく、被度は15%と微増した。
		外浜	10%	2024年の白化以前は、礁縁では被度が高くなり、クシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシ大型群体もみられた。30cm程度の小型ミドリイシ群体も散見でき、水路部でも部分的に卓状ミドリイシが高被度でみられが、2024年の白化の影響は大きく、被度は80%から10%に大幅に減少した。今年度も被度は10%であった。
		屋鈍崎	20%	2024年の白化以前は、礁斜面上部に直径40～60cm程度のコユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等の指状ミドリイシ群体や直径60-100cmのクシハダミドリイシ等の卓状群体が多くみられていたが、2024年の白化で、被度は90%から5%に大幅に減少した。今年度は白化から回復した群体もみられ、被度は昨年度5%から20%と増加した。
		屋鈍	5%	2024年の白化以前は、直径30～60cm程度の指状および卓状ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシ群体が散見できたが、2024年の白化の影響は大きく。被度は2023年60%から5%に大幅に減少し、今年度も5%であった。
		タエン崎	5%	2024年の白化以前は、直径30～50cmのコリンボース状および直径1m以上の大型卓状ミドリイシ属のサンゴ群体が散見でき、浅所では樹枝状ミドリイシ小群落がみられたが、2024年の白化の影響が大きく、被度は2023年90%から5%に大幅に減少した。今年度も被度は同様に5%であった。

令和7年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名		調査地点	被度(%)	状況
	宇検村	タエン	5%	2024年の白化以前は、ハナヤサイサンゴ類やコモンサンゴ類、アザミサンゴ類、クシハダミドリイシ等の大型ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシの小群落もみられていたが、2024年の白化の影響が大きく、被度は2023年70%から5%に大幅に減少した。エダイボサンゴやチヂミウスコモンサンゴ、ハマサンゴ類が生存する。被度は昨年度同様に5%
		枝手久島北	20%	2024年の白化以前は、ハナヤサイサンゴ類やコモンサンゴ類、アザミサンゴ類、クシハダミドリイシ等の大型ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシの小群落もみられていたが、2024年の白化の影響が大きく、被度は2023年70%から5%に大幅に減少した。エダイボサンゴやハマサンゴ類が生存する。被度は昨年度同様に5%であった
		倉木崎	50%	直径20～80cm程度の卓状ミドリイシ属群体が散見できる。クシハダミドリイシ、コユビミドリイシやオヤユビミドリイシが多い。ハナヤサイサンゴも散見できる。塩通しが良いためか、2024年の白化の影響は比較的少なかった。被度は昨年度30%から50%に増加した。
		船越海岸	15%	2024年の白化以前は、クシハダミドリイシ等の大型卓状ミドリイシ属が優占し、コユビミドリイシ、オヤユビミドリイシも多くみられた。新規加入のミドリイシ属のサンゴも多く、健全なサンゴ群集が広がっているたが、2024年の白化の影響を受け、被度は2023年60%から20%に減少した。今年度は15%と微減した。
	龍郷町	嘉渡	30%	コユビミドリイシ等の指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。パラウネタケ等のソフトコーラルが優占する。今年は白化群体が無かった為、被度は30%に増加。
		円	40%	コユビミドリイシ等の指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。昨年の白化も少なく小さなサンゴの着床が多く見られ被度は40%に増加。
		今井崎	40%	ソフトコーラル、ハードコーラルともに変化無く健全な状態。波当たりが強くニオウミドリイシ等もみられる。白化群体なし。被度は昨年同様40%。
		ハナゴイ	40%	パラオハマサンゴ、ユビエダハマサンゴ、コブハマサンゴ群落が連なる。ミドリイシ群体は少ない。オニヒトデの食害無し、白化群体無し、被度は昨年同様40%。
		赤尾木	30%	砂地にハマサンゴが多く点在。ミドリイシ属群体も昨年度と変化なし。白化群体なし。被度は昨年同様30%。
		白浦	25%	コブハマサンゴは健在。樹枝状ミドリイシ属群体が減少。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は25%に減少。
		戸口アーチ	10%	ミドリイシ属群体は少ない。ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。高水温が続かなかった為白化群体無い。被度は昨年同様10%。
		戸口アウン	25%	ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。指状のミドリイシ属小型群体がまばらにみられる。今年は高水温が続かなかった為、多少回復し被度は25%に増加。
		ウマズバマ	15%	オオウミキノコやパラウネタ等のソフトコーラルが優占。半球状サザナミサンゴ科群体や被覆状コモンサンゴ属群体がみられる。被度は昨年同様15%。
		戸口落水	25%	卓状のクシハダミドリイシ大型群体も少数みられる。直径30cm程度の指状ミドリイシ属が多い。オニヒトデ食痕や白化群体無し、今年着床個体も多く被度は25%に増加。
		久場	10%	水深3mのユビエダハマサンゴは死滅状態。水深10mを越えるとリュウモンサンゴ群落、エダセンベイサンゴが広がる。被度は10%に減少。
		倉崎	25%	塊状ハマサンゴ優占。直径60cm程度の卓状ミドリイシ群体が多い。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年同様25%。

令和7年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度(%)	状況
瀬戸内町	安脚場	55%	昨年度と変化無し
	黒崎	30%	昨年度と変化無し
	実久	25%	R6年度白化現象の影響を強く受けている
	デリキョンマ岬	50%	白化現象から回復傾向
喜界町	小野津①	20-30%	白化や食害は無し。比較的安定したサンゴ群集が広く分布
	小野津②	40-50%	
	小野津③	40-50%	
	荒木①	30-40%	昨年の白化で死滅した群集が多くみられた。造礁サンゴが散在的に分布
	荒木②	30-40%	
	荒木③	40%	
	花良治①	5%	2024年夏季の高水温によりほとんどの造礁サンゴ類が白化。被度は低いが複数地点に小規模の造礁サンゴ確認
	花良治②	5%	
	花良治③	5%	
	塩道①	0-5%	2024年夏季の高水温によりほとんどの造礁サンゴ類が白化。被度は低いが複数地点に小規模の造礁サンゴ確認
	塩道②	0-5%	
	塩道③	0-5%	
徳之島町	畦海岸	50～74%	部分白化や弱白化のサンゴを多少確認した。被度は昨年同様。
	母間海岸	50～74%	部分白化や弱白化のサンゴを多少確認した。被度は昨年同様。
天城町	院浜	4%	ほぼ全滅
	ヨナマ漁港・灯台下	0～100	全滅だが港内の一部のみ100%
	千間海岸	3.9+	ほぼ全滅
伊仙町	検福	50～74	低温による白化、食害
	面縄	50～74	
	喜念	50～74	弱白化、食害
	喜念(コバンシャ)	50～74	低温による白化、食害
和泊町	ワンジョ	25%未満	オニヒトデは見当たらなかった。
	イダシチ	25%未満	オニヒトデは見当たらなかった。
	西原	25%未満	オニヒトデは見当たらなかった。
	出花	25%未満	オニヒトデは見当たらなかった。
知名町	沖泊	10%	高水温により前回より大きく減少している。
	屋子母	25%	高水温によりほぼ消滅している。
	ウジジ沖	25%	高水温によりほぼ消滅している。

令和7年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度(%)	状況
与論町	供利沖	27.5%	被度はやや不良(白化率 4.5%)
	長崎沖(長崎の塔)	16.3%	被度はやや不良(白化率 15.4%)
	長崎沖(キャニオン)	12.5%	被度はやや不良(白化率 10.0%)
	赤崎沖(風車下)	11.3%	被度は良(白化率 0%)
	赤崎沖(礁斜面)	18.7%	被度は良(白化率 0%)
	赤崎沖(礁池内)	18.7%	被度は良(白化率 0%)
	シーマンズ沖	27.5%	被度は不良(白化率 9.1%)
	皆田沖(礁池内)	12.5%	被度は良(白化率 0%)
	皆田沖(礁斜面)	31.3%	被度は良(白化率 0%)
	宇勝沖	31.3%	被度はやや不良(白化率 4.0%)
	茶花沖(ニュードロップオフ)	32.5%	被度は良(白化率 0%)
	茶花沖(宮殿東)	42.5%	被度は良(白化率 0%)
	プリシア沖	17.5%	被度は不良(白化率 21.4%)